



2027横浜
国際園芸博覧会

横浜市における計画案の検討状況

第1回目

1. 基本認識
2. テーマ・サブテーマ・事業コンセプト
3. 参加方針
4. 事業運営計画
5. 会場計画
6. コミュニケーション計画
7. 輸送計画
8. レガシー計画
9. 事業費・事業スケジュール

基本認識、サブテーマ、事業コンセプト等を中心に議論

第2回目

1. 基本認識
2. テーマ・サブテーマ・事業コンセプト
3. 参加方針
4. コミュニケーション計画
5. 会場計画
6. 展示・行催事計画
7. 会場運営・管理計画
8. 輸送計画
9. 情報基盤計画
10. 組織・資金計画
11. リスク管理計画
12. レガシー計画

第1回検討会で議論したサブテーマ・事業コンセプト等から具体的な方針を議論

第3回目 (3月)

1. 開催概要
2. 事業方針
- 3. 展示・行催事計画**
- 4. 会場計画**
5. 会場運営・管理計画
- 6. 輸送計画**
7. 情報基盤計画
- 8. コミュニケーション計画**
- 9. 組織・資金計画**
10. リスク管理計画
- 11. レガシー計画**
12. スケジュール

※太字は詳細にご説明する項目

第1回、2回での議論を踏まえ、計画市案取りまとめ

1) 事業構造

- ・総来場者の検討
- ・会場建設費・運営費

2) 基本計画

- 1 全体概略
- 2 展示・行催事計画
- 3 Village（会場全体を使ったコンテンツ展開）
- 4 会場計画
- 5 輸送計画
- 6 コミュニケーション計画
- 7 レガシー計画

1) 事業構造

- ・ 総来場者の検討
- ・ 事業構成・会場建設費・運営費

1) 事業構造 (参加者の検討～2027横浜国際園芸博覧会の参加モデル～)

- ・参加者規模：1,500万人以上 (ICT活用や広域・地域連携などの多様な参加形態を含む)
- ・有料来場者数：1,000万人以上

リアルな体験・空間演出

- ・園芸や農などの体験を通じて、来場者に人と自然の共生や自然環境の大切さに気づかせ、意識や行動の変容に繋げるため、**リアルな体験の場の提供が重要**
- ・**体験や自然環境の体感に適した会場空間（密度）の設定や演出が必要（1日の来場者10万人）**

ICT（情報通信技術）等の活用

- ・テレワークやオンラインセミナーなど、働き方や暮らし方に変化
- ・芸術鑑賞やイベント等においてもバーチャルなど**ICT等を活用した参加スタイルが進展・定着**
- ・**2050年の社会を見据えれば、オンライン参加等を博覧会への新たな参加方式として位置づけるのが妥当**

あらゆる主体の参加・会場外との連携

- ・多様な主体による連携の取組や、ボランティアなど、博覧会に関わる**あらゆる主体が博覧会に参加する仕組み**を創出していく
- ・市内外の庭園、企業や個人の庭を巡るツーリズムや、農業体験など、**会場外の庭園や体験型イベント等との連携**に取り組む

1) 事業構造 (資金計画の構成)

資金計画の構成

	収入	支出
(1) 会場建設費	<ul style="list-style-type: none">・ 国・ 地方公共団体・ 民間	<ul style="list-style-type: none">・ 基盤施設整備費・ 修景整備費・ 展示館整備費・ 観客施設整備費・ 管理施設整備費・ 施設撤去及び復旧等
(2) 運営費	<ul style="list-style-type: none">・ 協会が主体となり実行する事業収入	<ul style="list-style-type: none">・ 会場運営費・ 事業運営費・ 観客対策費・ 広報宣伝費・ 一般管理費・ その他 (輸送 etc.)

1) 事業構造 (会場建設費)

- 会場の整備の前提となる基盤については、土地区画整理事業及び都市公園事業等により計画的に整備を進め、博覧会事業による会場整備は、演出の修景や出展物の整備等を中心に行う。
- なお、観光賑わい区域に係る2層部分及び工作物等に係る整備については、土地区画整理事業の進捗に合わせ、市が観光賑わい事業と調整して計画的に整備

基盤整備の考え方

3層：造園、演出、 建築、施設etc.	〈博覧会事業〉 演出修景、出展作品、仮設物	〈博覧会事業〉 演出修景、出展作品、仮設物
	〈都市公園事業〉 造園修景、工作物、建築物	〈今後調整〉 造園修景、工作物、建築物
2層：園路広場、インフラ	〈都市公園事業〉 通路、広場、上下水、電気	〈今後調整〉 通路、広場、上下水、電気
1層：造成 (土工)	〈土地区画整理事業〉 造成、基幹インフラ	

